

平成27年度家庭学習支援塾を開催しました

奥出雲町の中学生を対象とした、放課後の時間を使って学習の場を提供する「家庭学習支援塾」を開催しました。この事業は、中学生の「家ではなかなか集中して学習ができない」「家ではわからないところがあっても聞く事ができない」などの声に対して10年前より開催されてきたもので、平成27年度は10月から1月の4ヵ月間、仁多・横田両会場それぞれ週2回開催され、奥出雲町の中学生の2割以上が参加するなど、年々受講生が増えています。本事業については、町民の方に講師としてご協力をいただくなど、町民の皆様のお力添えがなくては成り立たない事業です。本事業について町民の皆さんに広くお知らせさせていただくことで一層のご理解ご協力を賜りたく、平成27年度事業の実施結果を下記の通りご紹介させていただきます。

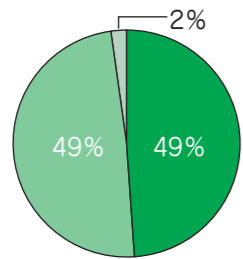
【参加状況】

奥出雲町の中学生徒数	家庭学習支援塾受講生徒数	参加率
343人	72人	21%

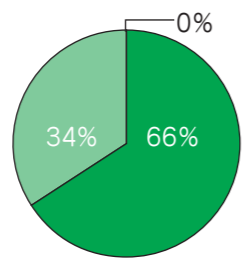
【アンケート結果(抜粋)】

●受講生のご意見

Q. 塾に参加してみたいかでしたか？



Q. 集中して、学習に取り組みましたか？



■良かった
■まあまあ良かった
□良くなかった

■よくできた
■まあまあできた
□あまりできなかった
□ぜんぜんできなかった

家では、こんなにたくさん勉強できないからとても良かった。テスト期間中にやると、もっといいかなと思いました。

とても丁寧に分かりやすく教えてもらって、自分でもう一度やったときに、ちゃんとできたので、参加して良かったと思っています。ありがとうございました。

ふだん分からなくてほったからしのところを教えてもらえて良かったです。

家だと90分ずっと集中して学習することが少ないですが、塾の時は、しずかに落ちついて学習できました。また、分からない所を教えてもらったので良かったです。

●保護者のご意見

テスト前の支援塾は本当に良かったと思います。家庭に帰ると部活をした後なので、疲れて思うように勉強できなかったと思いますが、週2回の支援塾に参加する様になってからは、家庭でも少し勉強の時間が増えた気がします。

課題を学校でやって帰ると、家ではゆっくりとめりはりがついて良かったです。家だと甘えてたいぎなことは後回しになるので、集中できることがすごく良かったと思います。

塾の日は早めに宿題が終わり、自宅での過ごし方も変わりました。短時間でも集中してやる方が学力も身につくように思いました。

家ではなかなか机の前になかったのが、支援塾で自分の分からない事を聞いて自分が理解出来、スッキリして勉強に向かっていた。

スポーツ・文化振興

全国トップレベルの競技力を誇るホッケー競技については、引き続き、小・中学校、横田高校、セリオ島根などの競技力向上のための支援を行います。そして、4年後に開催される東京オリンピックに向けて、参加国の事前キャンプ誘致や町内出身のオリンピック選手輩出などに向け、様々な取り組みを進めます。また、町民の健康増進、体力向上、生涯スポーツの普及・振興のため、「奥出雲スポーツクラブ」などへの各種支援に努めます。次に文化・芸術の振興についてです。文化の薫り高い町づくりの推進のため、引き続き、奥出雲町文化協会をはじめとする文化芸術団体などへの支援を図るとともに、芸術鑑賞など多様な機会による芸術文化団体との交流を推進します。また、奥出雲町が誇るたたら製鉄の価値をさらに高めるため、関連する歴史遺産の調査を進めるとともに、国の重要な文化的景観の選定を受けた「たたら景観」の整備を進めます。さらに、雲南市、安来市と奥出雲町の2市1町で進めている「た

たら製鉄」の「日本遺産」認定に向けた取組みと連携しながら、奥出雲の文化、伝統を含めた地域振興及び観光振興に努めます。

新エネルギー施策

4月より電力の小売が全面自由化されることから、本町においても小水力発電などの再生可能エネルギーの地産地消を推進するとともに、安価な電力供給による地域の発展を目指して、新たに電力小売会社を設立します。当初は公共施設を対象とし、状況をみながら事業所などへの供給も検討したいと考えています。また、バイオマス産業都市構想については、当初、森林資源を製鉄用炭素材へ活用する方針でしたが、供給側と需要側の単価に大きな隔たりがあるため、見直さざるを得ない状況となりました。今後は小規模なバイオマス発電による電気・熱エネルギーの活用計画を変更し、資源エネルギーの地域内循環に努めていく考えです。その他、発電事業については三沢発電所改築事業に引き続き取り組み、平成29年秋を目標に、電力固定価格買取制度による運転を開

始します。

また、阿井地区川東水路を利用した農業用小水力発電事業については、来年度において整備を完了し、平成29年度からの事業開始を予定しています。今後、本町の豊富な森林資源と未利用資源の活用を推進するとともに、小水力発電など再生可能エネルギーを活用した持続的・安定的な循環型社会の実現を目指します。

消防・防災対策等

7月に出雲市で開催される県消防法大会には、八川分団が「小型ポンプの部」に、布勢分団が「ポンプ車の部」に出場することが決定しており、優勝の獲得を期待しています。また、機能別消防団員の配置による消防力の向上を図るとともに、町民要望の多い耐震性貯水槽の整備を計画的に行います。その他、公共施設の耐震化・防災拠点の整備を図るために実施している仁多庁舎整備については、駐車場等を含めた完成は来年度末となりますが、新庁舎への移転は今年の秋頃を予定しています。なお、マイナンバー制度導入に

関連した「自治体情報セキュリティ対策」については、国が示す抜本的対策を実施し、町民の皆様の個人情報や「サイバー攻撃等」から守ってまいります。

行政改革

本町は、昨年3月31日に町制施行合併10周年を迎えました。合併後は、「新町建設計画」や「奥出雲町総合計画」に基づき、町民の皆様の連帯感の醸成と要望の実現に向け、積極的な行政運営が進められました。こうした状況の中、今年度から始まった交付税の一本算定への移行に伴って交付額は年々減少し、一方では、昨年策定した「総合戦略」に基づき、子育て支援、定住対策等の取り組みを進めていくことが求められています。このような社会情勢の変化に対応した、より簡素で効率的な町政を推進するため、直面する公共施設の適正配置等の諸課題について、来年度、行政改革審議会に諮問したいと考えています。今後とも議員各位、町民の皆さまの格別のご理解、ご協力をお願いいたします。